



# ゆり北

第34号(4期第8号)

発行・光が丘パークタウン

ゆりの木北自治会

東京都板橋区赤塚新町

3-32-4-403

電話03(938)9181番

発行責任者 吉柳俊孝

## 防災訓練を終えて

### 月に一度は家族で訓練を

十一月九日の日曜日、赤塚新町小学校校庭において第三回ゆり北防災訓練を実施しました。朝から肌寒い日曜日でしたが、一号棟から十四号棟まで、それに商店会、よしやから参加を含めて、百五十名程の訓練参加人数でした。

今回も志村消防署・成増出張所の指導のもとに、四課程の訓練を行ないました。今年からは管理組合が自衛消防組織の強化と消防リーダーの積極的な参加により、準備の方もスマートに行なうことが出来ました。

初期消火訓練では、参加者の方ほぼ全員が消火器を操作出来たのではないかでしょか。使用する機会がないに越したことはありませんが、いざという時には、あわてず訓練時の要領で大事にいたる前に火災を防ぎましょう。



お母さんの作った即席タンカ。

訓練しておけばボクも安心だよ。

重なり、予定の半数で終わりました。が、はしご車のはしごを最大にした状態に乗りたいという役員の要望により、渡辺副会長を乗せた救助カゴは、五号棟を見下ろせたそうです。

みなさん、訓練は非常に大切です。自治会では今後とも防災訓練は続けていきますので、今回都合で参加出来なかつた人は、次回にはぜひ参加して下さい。

なお、今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申します。

最後になりましたが、企画の段階で、予定通り正午近くに終了。

今年で三回目だという防火訓練に防災リーダーの立場で初めて参加しました。当日は、十一月の初旬にしては寒さが厳しく、昼近くには小雨もぱらつく、あいにくの天候であった。

参加者の老若男女は、寒さをこらえながら、訓練スケジュールをこなし、予定通り正午近くに終了。

より当日終了までの間、自治委員の方々には大変お世話になりました。厚く御礼申し上げます。△環境部▽

### 防災訓練に思うこと

12-1503 原島健一

ゆり北冬まつりは、これまで三回にわたり、子供を対象とした舞台に模擬店というパターンで実施してきました。

しかし、夏まつりが年々盛大に行なわれるようになり、冬まつりもまた夏と同じパターンではどうだろうかという見直し案が出されました。

その中で、ゆり北に住んでいる行なわれるようになり、冬まつりもまた夏と同じパターンではどうだろうかという見直し案が出されました。

今までの子供中心から、ひとりつ輪をひろげ、一般の住民がだれでも参加できるもの、より文化的なものに目をむけた「冬まつり」を行ないたいと考えております。

## 冬まつり文化展

# 作品募集!!

日時・十二月二十一日(日)午前十一時~午後四時

会場・五号棟、十二号棟集会所(予定)

主催・ゆりの木北自治会

内容・写真、絵画、書、手工芸、映像の展示、各サークルの紹介等。

応募先・文化体育部の高橋まで

締め切り日・十二月十七日

応募される方はゆりの木団地、

または近傍にお住いの方で、年齢

性別は問いません。どしどし応募

して下さい。すべての作品について

特にテーマは設けません。

なお、詳細はポスター等で後日掲示しますので、ご覧下さい。

本来、灾害は天災、人災にかかわらず、ないに越したことはないのだ

が、防災訓練の目的は、灾害発生に

対して最小限の被害にくい止める知

恵を、知識と実体験を通じて養おう

ということだ。

その意味では、主催側の意図もある程度満たし、参加者の意識強化も

対して最小限の被害にくい止める知

恵を、知識と実体験を通じて養おう

ということだ。

しかし、万一災害が発生すれば、

状況も違うし、その程度によって対

応せざるを得ない。「冷静な判断と

的確な行動」は直面して初めて発揮

されるし、結果としてそう願いたい

ものである。

状況も違うし、その程度によって対応せざるを得ない。「冷静な判断と的確な行動」は直面して初めて発揮されるし、結果としてそう願いたいものである。

未然に防ぐ注意を日頃から励行することにつき。同時に、三原山噴火のような天災に遭遇した場合(特に地震)、発生直後の火災の心配や二次災害の恐れが問題だ。広域型の災害では情報の出し方や行政の対応が被害の度合を左右するというが、個人的には心して臨むしかあるまい。

もう一点。自治会活動の一環としての行事に、12号棟ではリーダーとその家族のみの参加であった。予想通りの感もする。分譲と賃貸の意識の相違、価値観、生活サイクル、自治会に対する考え方、等々。

